

難波静岡市長 様

令和 7 年 7 月吉日

市長におかれましては、日頃より本市のまちづくりや地域活動に対し、深いご理解とご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。

また、城北公園の再整備計画に際し、市長のご判断により市民との懇談会が設置され、私たちが直接意見を交わし、地域の声を共有する貴重な機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今回の懇談会には、地域住民、公園利用者、子育て・教育関係者など、幅広い立場の市民が参加し、それぞれの視点から意見や思いを出し合いました。私たちは、その対話を通じて、城北公園が地域にもたらしている価値の大きさをあらためて実感いたしました。四季折々の自然、訪れる人々の交流、子どもたちの遊び場など、城北公園はまさに地域の宝であり、市民の誇りでもあります。再整備にあたっては、こうした魅力を大切にしつつ、次世代へと継承できる、より魅力的な公園へと発展していくことを、心より願っております。

私たちは、特別な公園を求めているのではなく、私たちの暮らしに寄り添い、日々の生活を豊かにしてくれる公園となることを願い、これからの公園に求められる機能や価値について真摯に議論を重ねてまいりました。その中で、

1. 日常の安心・安全を確保しつつ、災害時の避難機能を果たす防災性の強化。特に高木管理については、安全性、維持管理費、育成環境の観点から多面的な検討を行い、管理ルールの整備を進めること。
2. 現在の城北公園の良さを活かしながらも、時代に即した多様な利用ニーズに対応する要素の導入。
3. 維持管理費を抑えつつ、持続可能な公園運営・管理の実現。
4. そのための市民参画の仕組みやインセンティブの設計。
5. 参画の基盤となるパブリックコミュニティの核づくり。

6. 障がいのある方やベビーカー利用者、高齢者など、多様な立場の人々が安心して利用できるよう、インクルーシブデザインの視点を取り入れた空間整備を行うこと。

といった視点を重視してまいりました。これらの考え方は、単なる施設整備の要望ではなく、住民自らが関わることで生まれるエンゲージメント、オーナーシップ、コミットメントといった価値を高め、よりよい公共空間を育てていくための出発点であると考えております。

このたびの提言書は、単なる再整備への要望を取りまとめたものではなく、市民との丁寧な対話を重ねる中で生まれた、「これからの公共事業の進め方」に関する新たな視点を含んでいます。計画の初期段階から市民の声を取り入れ、ともに考え、ともに創り上げていくプロセスは、まさに“協創”であり、“地域社会の力”を活かす新しい行政のあり方を示すものです。そしてその姿勢は、まさに市長がこれまで示してこられた行政の方向性と深く合致するものであると、私たちは受け止めております。

城北公園の再整備に際しては、本提言をご参考にしていただくとともに、今後の公共事業全般が、地域社会の力を活かし、住民との対話を基盤に進められることを、心より願っております。

城北公園再整備懇談会メンバー一同